

『自らの命は自らで守る』意識の構築に向けて

～第5回『揖保川減災対策協議会』を開催～

RI. 5. 27

－ 姫路河川国道事務所 －

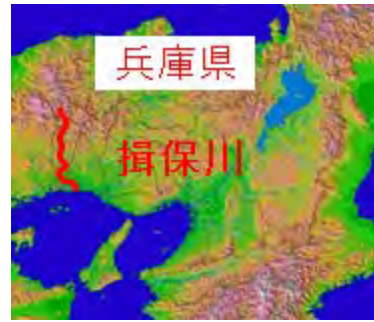
本協議会は、揖保川において堤防決壊等に伴う大規模な浸水被害に備え、河川管理者、県、市町等が連携・協力して、減災のための目標を共有し、ハード対策とソフト対策を一体的、計画的に推進することにより、揖保川において氾濫が発生することを前提として社会全体で常に洪水に備える「水防災意識社会」を継承・再構築することを目的とするものです。

第5回協議会では、神戸大学 大石哲教授より「頻発する豪雨災害を踏まえた河川のリスク」を、気象予報士 正木明氏より「迅速な避難につながる情報の伝え方」をそれぞれ講演いただき、その後パネルディスカッションによる意見交換を実施しました。また平成30年度の各機関の取組内容を共有しました。

概要

対象河川：揖保川水系揖保川

- 日 時：令和元年5月27日（月）10：00～12：00
- 場 所：太子町あすかホール 中ホール
- 参加者：たつの市長、宍粟市長、姫路市長（代理）、太子町長（代理）、姫路河川国道事務所長、神戸地方気象台長、中播磨県民センター県民交流室次長、姫路土木事務所長、龍野土木事務所長、西播磨県民局総務企画室長（代理）、神戸大学教授 大石哲氏、気象予報士・防災士 正木明氏 計110名



講演概要

神戸大学教授・大石哲氏「頻発する豪雨災害を踏まえた河川のリスク」

- ・昨年7月の倉敷市真備町の被災実態を例に、揖保川で起こりうる災害やマイ防災マップを紹介

気象予報士・正木明氏「迅速な避難につながる情報の伝え方」

- ・長年の気象予報や昨年9月の台風21号の際の経験を基に、より多くの人々にわかりやすく伝えられる情報の伝え方を紹介



神戸大学教授
大石哲氏による講演



気象予報士・防災士
正木明氏による講演

パネルディスカッション

テーマ

「住民が『自らの命は自ら守る』意識を持つために、行政が支援できること」

- ①：平成30年7月豪雨等を踏まえ、住民へ避難を促すための課題は何か？
→避難情報が入ったにも関わらず避難しない人が大多数。正常性バイアスを取り除き、「自分の命は自分で守る」ことを啓発する必要がある。
- ②：①を踏まえ、そのために平時から取組む対策は何か？
→災害避難カードの配布や避難訓練を繰り返し行うことで、**避難することの意識を醸成**する。
- ③：①を踏まえ、そのために非常時に取組む対策は何か？
→避難情報を、**的確に・正確に・時には強い口調**で発する。



姫路市
坂口防災審議監



たつの市
山本市長



宍粟市
福元市長



太子町
名倉副町長

パネルディスカッションにおける意見交換の様子

各機関の取組

- 姫路市：小学生における水防教室の実施
- たつの市：地域防災リーダー育成講座の実施
／揖西西小学校防災訓練の実施
- 宍粟市：自主防災マップの作成・更新講習会
の実施／防災関連体験授業の実施
- 太子町：防災訓練の実施
- 県：重要水防箇所の共同巡視
- 国：浸水疑似体験AR及びマイクロモデルの
紹介／危機管理型水位計の設置(30箇所)
- 気象庁：防災気象情報の改善 等



廣澤気象台長



磯部所長

【問い合わせ先】

国土交通省 近畿地方整備局
姫路河川国道事務所 調査課
〒670-0947
姫路市北条1-250
TEL 079-282-8211

